

佳作

やせこうおねえさん

岡山県岡山市立平島小学校二年 藤原 侑里

今年の二月に、わすれられない出きごとがありました。

その日、わたしはいつものように、おばあちゃんの車にのってならいごとに行きました。

「じゃあ、行ってきます。」

と、車をおりて、二かいの教しつへ上がって行くとドアにかぎがかかっていました。そこには紙がはってあって、どうやら、きゆうにならいごとがお休みになったようです。いそいでかいだんを下りて、ちゆう車場にもどりましたが、おばあちゃんの車はちゆうど出たところでした。

「まって！」

と言いましたが、気づかずに行ってしまった。

頭の中が、一しゅんとまりました。どうしよう。

教しつにはだれもいないし、けいたいももっていま

せん。どうすればいいのかわからなくて、ないてしまいました。

すると、じてん車にのった四人の中学生くらいのおねえさんがきてくれました。四人は、やさしくわたしの話を聞いてくれました。

「おうちはどこ？あるいてかえってみる？」

と、一人のおねえさんが言いました。

わたしは、車でしかきたことがなかったので、ふあんでした。けれども、赤いかんばんや、見たことのあるたてものなどを手がかりに、家まであるいてかえってみることにしました。おねえさんたちも、じてん車をひいていっしょにきてくれました。そのうち、たまたまとおりがかったおねえさんの友だちも何人かついてきてくれて、気がつくともんなで八人くらいになっていました。ずいぶん長くあるきましたが、おねえさんと色いろ話をしながらかえりました。

だんだん見なれた場しよになっていき、とうとう家につきました。わたしはとてもほっとしました。

おねえさんたちが、

「よかったね。」

と、えがおで言ってくれて、わたしはおねがいっぱ

いになりました。みんなに何回もおれいを言って、おわかれをしました。

わたしは、この時のことがわすれられません。今どからは、もしこまっっている人がいたら、すぐかけつけてたすけることができる、やさしいおねえさんになりたいと思います。